

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	Onyx 塞栓術を用いた脳動静脈奇形治療成績の検討
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
対象者：2010年2月から2029年3月までに脳動静脈奇形に対して当科でOnyx 塞栓術を受けた患者	
③概要	
脳動静脈奇形に対して摘出術、定位放射線治療が行われるが、ナイダス内に流れる圧の高い血液のため、手術の難易度は高く、周術期の合併症は多い。そこで、Onyx 塞栓物質を用いて術前にナイダスを塞栓する事で、手術を安全に行うことができ、或いは定位放射線治療が可能なナイダスの体積まで減じる事ができるようになった。しかし、比較的新しい手技であるため、長期治療成績や合併症、最適の治療の組み合わせやタイミングは解っていない。	
④申請番号	2019-0183
⑤研究の目的・意義	Onyx 塞栓術を行った脳動静脈奇形症例の治療成績、合併症、最適な治療の併用やタイミングを明らかにすること。
⑥研究期間	倫理委員会にて承認された日にちから2029年3月末まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	電子カルテに保存されている病歴及び画像を利用します。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	病歴（年齢、性別、脳内出血、てんかんの有無、Spetzler-Martin 分類）、塞栓術セッション数、周術期合併症の有無、入院時及び退院時の予後（mRS）及び画像（脳動静脈奇形の場所（前方循環または後方循環）、ナイダスの体積、ナイダス塞栓率など）
⑨利用の範囲	新潟大学 脳研究所 脳神経外科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 脳研究所 脳神経外科 助教 鈴木 倫明
⑪お問い合わせ先	脳神経外科医局 025-227-0653 shindainougeka@bri.niigata-u.ac.jp